

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦舞
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	C区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	6企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな	かぶしがいいしゃぼっくすよろづや	団体ウェブサイトURL
制作団体名	株式会社BOX4628	http://box4628.jp/
代表者職・氏名	代表取締役・滝沢直也	
制作団体所在地	〒 171-0014	最寄り駅(バス停) 東京メトロ 要町
	東京都豊島区池袋3-1-12-702	
電話番号	03-6907-0569	
ふりがな	おきげいだいりゅうきゅうげいのうせんこうおーびーかい	団体ウェブサイトURL
公演団体名	沖芸大琉球芸能専攻OB会	http://www.i-okinawa.ne.jp/people/okigeidai-obkai/
代表者職・氏名	会長・玉城和樹	
公演団体所在地	〒 901-2122	最寄り駅(バス停) 勢理客
	沖縄県浦添市勢理客2-18-1-202	
制作団体 設立年月	2015年4月	
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等
	代表取締役:滝沢直也 取締役:榎本かおり、岡本雅人 顧問:相談役:織田紘二 相談役:川満香多・大城建大郎(実演家)	役員3名 監査役1名 事務局員5名 ※当団体の活動に賛同し琉球芸能に携わる実演家および関係者、舞台スタッフ
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名 榎本かおり
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名 税理士 大塚康正
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	box4628_nk@yahoo.co.jp	
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	box4628_nk@yahoo.co.jp	

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>2013年 制作会社BOX4628として発足、現住所に所在地を置く 2015年 法人格を取得、株式会社BOX4628 2015年 日本財団主催による「にっぽん文楽」六本木公演のアシスタントプロデューサーを務める 2017年 「平成29年度文化芸術による子供の育成事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2018年 「平成30年度文化芸術による子供の育成事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2019年 「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2020年 「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2021年 「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業」巡回公演事業採択(2団体) 沖縄伝統組踊「子の会」、一般社団法人善竹狂言事務所 2022年 「令和4年度文化芸術による子供育成推進事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」 2023年 「令和5年度文化芸術による子供育成推進事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」、沖芸大琉球芸能専攻OB会 2024年 「令和4年度文化芸術による子供育成推進事業」巡回公演事業採択 沖縄伝統組踊「子の会」、沖芸大琉球芸能専攻OB会、一般社団法人善竹狂言会</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2013年 組踊鑑賞会「執心鐘入」3校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」6校、 「落語教室」6校 2014年 組踊鑑賞会「執心鐘入」17校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」4校 「落語教室」10校 2015年 組踊鑑賞会「執心鐘入」20校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」5校 「落語教室」10校 2016年 組踊鑑賞会「執心鐘入」20校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」3校 2017年 組踊鑑賞会「執心鐘入」10校、「パーフェクトパントマイム」1校、「狂言教室」35校 2018年 組踊鑑賞会「執心鐘入」15校、「狂言教室」27校 2019年 組踊鑑賞会「執心鐘入」10校、「狂言教室」16校 2020年 組踊鑑賞会「執心鐘入」8校、「狂言教室」10校</p>		
<p>特別支援学校等 における公演実績</p>	<p>2016年 「組踊鑑賞会」 1校</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=nDESofrNFAc</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよび</p>	<p>ID:</p>	
	<p>パスワード</p>	<p>PW:</p>	

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 沖芸大琉球芸能専攻OB会】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	おきなわ伝統芸能「はじめての琉球舞踊にチャレンジ」
-----	---------------------------

企画のねらい	<p>ワークショップ、本公演を鑑賞される児童・生徒、教職員、学校関係者、皆さんの大多数の方は、おそらく沖縄独自の伝統芸能である琉球舞踊を初めて鑑賞されることでしょう。</p> <p>国指定重要無形文化財に指定されている、琉球舞踊を鑑賞することは、沖縄の歴史、文芸、音楽、舞踊など、地域的、文学的、音楽的、舞踊的特色が明確であることを初めて知る貴重な機会となります。</p> <p>こうした知識を身につけることで、将来を担う児童・生徒が自国の伝統芸能や舞台芸術への興味関心が促されると思うのです。</p> <p>また、琉球舞踊の体験・共演に参加し触れる、直接的・具体的な体験から、子どもたちに豊かな感性と創造性、意欲を育むとともに、コミュニケーション能力の向上につながると考えます。</p> <p>加えて、ワークシートを活用していただくことで、児童・生徒が本企画から得た知識や体験を、鑑賞できなかった児童・生徒へ共有することで教育学習の向上につながると考えます。</p> <p>そして本企画を通して、総合的な学習の時間に活用していただきたいと思います。変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う時間に利用していただき、児童・生徒が自ら将来、課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつなげてほしいのです。</p> <p>琉球舞踊の鑑賞と体験の活動は、次のように小学校教科、中学校教科に充てることができます。「方言」や「琉球古語」を国語に、「琉球国時代からの沖縄の歴史」を社会に、「楽器三線」や「琉球古典音楽」を音楽に、「装束」や「衣装」を家庭に、「舞踊」や「型」を体育に、「沖縄の人々の県民性」「多様なものを受け入れる寛容さ」「相互扶助の精神」を道徳に、このような課題を設定することができます。</p> <p>これらの課題を元に、情報収集～整理・分析～まとめ・表現と、プロセスを進めていただき、今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開ができると考えます。</p>
--------	---

演目概要・演目選択理由	<p>初めて琉球舞踊を鑑賞するのに相応しい演目としました。</p> <p>琉球舞踊の舞と所作の美しさが多分に含まれる演目と考え選択致しました。</p> <p>琉球舞踊を通して琉球国時代の歴史を学ぶことができます。</p> <p>【演目概要】</p> <p>琉球舞踊「四つ竹」女踊り 竹で作られたカスタネットのような鳴り物、四つ竹を両手に持ち「踊りこはでさ節」の演奏にのせてカチカチと四つ竹を打ち鳴らしながら踊ります。衣装は艶やかな紅型衣装、頭に花笠を被ります。</p> <p>琉球舞踊「四季口説」若衆踊り 春夏秋冬の情景を描きながら若衆の清白さをもった舞踊です。見どころは両手に持つ扇子を優雅に扱い踊る場面です。</p> <p>琉球舞踊「前の浜」二才踊り 渡し舟の往来と浜千鳥の飛び交う姿を重ねた祝儀舞踊です。見どころは空手の型を取り入れた力強い足拍子と手踊りです。</p> <p>琉球舞踊「加那ヨ一天川」雑踊り 庶民の若い男女の恋愛を描いた踊りです。見どころは花染手巾と帯を交わせながら踊る場面です。</p> <p>琉球舞踊「かぎやで風」老人踊り 宮廷の祝賀行事の座開きに琉球国王の御前で演奏されていた代表的な歌曲です。長寿を寿ぎ国家安泰、子孫繁栄の願いが込められています。</p> <p>創作舞踊「黒島口説」 八重山諸島黒島の風景や、人々の生活の様子を元よく口説きながら踊り、庶民の明るさやたくましさ表現した創作舞踊です。地謡によってうたわれる歌のなかに、踊り手によるはつらつとしたハヤシ言葉が各一節一節に入って、舞台を盛り上げます。</p> <p>【選択理由】 琉球舞踊の舞と所作の美しさ、磨かれた様式美の古典舞踊、軽快な音楽によって庶民の活力や生き生きとした感情を表現する雑踊、古典舞踊と雑踊の様式を取り入れつつ琉球舞踊の可能性を広げ続けている創作舞踊。 古典舞踊、雑踊、創作舞踊それぞれの要素が多分に含まれる特徴的な演目を選択致しました。 また、現在でも上演される機会の多い代表的な演目としました。</p>
-------------	--

<p>児童・生徒の参加又は体験の形態</p>	<p>●2, 塗絵(紅型)紹介 ワークショップの際に、お渡した塗り絵を頂戴して、会場の舞台装飾と致します。</p> <p>●2, おきな言葉(方言)クイズ 沖縄県の方言を二択のクイズ形式で行います。児童・生徒はその場で全員参加できます。</p> <p>●3, 琉装・小道具体験 代表児童・生徒が、琉球舞踊「四つ竹」の紅型衣裳と花笠を身につけます。</p> <p>●4, 古典舞踊「四つ竹」発表 代表児童・生徒による共演 紅型デザインの衣裳を着て、白足袋を履いて、地謡の生演奏に合わせて演舞を披露します。ステージ上、フロアのどちらでも使い会場一杯に踊ります。</p> <p>●5, 古典舞踊「かぎやで風」の手踊り体験 琉球舞踊を代表する所作である、手踊りを全員で体験します。 最後に鑑賞する「かぎやで風」に使われる手の動きも全員で体験してみましょう。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>本公演</p>	<p>参加・体験人数目安</p>	<p>400名程度</p>
		<p>鑑賞人数目安</p>	<p>400名程度</p>
<p>本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付</p>	<p>1, 古典舞踊「四つ竹」女踊り</p> <p>●2, ごあいさつ、沖縄県と琉球舞踊の紹介、紅型塗り絵の紹介、おきな言葉(方言)クイズ</p> <p>●3, 琉装体験・小道具体験</p> <p>●4, 「四つ竹」代表児童・生徒による共演演舞</p> <p>5, 古典舞踊「四季口説」若衆踊り</p> <p>6, 古典舞踊「前の浜」二才踊り</p> <p>7, 創作舞踊「黒島口説」</p> <p>8, 雑踊り「加那ヨ一川」</p> <p>●9, 児童・生徒全員で、古典舞踊「かぎやで風」の手踊り体験</p> <p>10, 古典舞踊「かぎやで風」老人踊り</p> <p>11, カーテンコール、感想発表や質問コーナー ※●は、児童・生徒の共演、参加又は体験となります</p> <p>※別添:本公演の様子参照</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
<p>出演者</p>	<p>沖芸大琉球芸能専攻OB会会員</p> <p>・琉球舞踊家 阿嘉 修、花岡 貴子、東江 裕吉、新垣 悟、伊佐 幸子、伊波 妙、知花 小百合、嘉数 道彦、佐辺 良和、西村 綾織 池間隼人、岸本 隼人、川満 香多、謝名堂 奈津、古謝渚、仲里綾香、宮崎花澄、比嘉大志、仲嶺夕理彩、知念亜希ほか</p>		
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>新垣 悟 沖縄県立芸術大学卒業、同大学院修了、宮城本流鳳乃會 師範、 知花 小百合 沖縄県立芸術大学卒業、同大学院修了、朱日流 師範 嘉数 道彦 沖縄県立芸術大学大学院音楽学芸術研究科修士課程修了、宮城流能里乃会師範、 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団前芸術監督</p>		
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 8 名 スタッフ: 4 名 合 計: 12 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: 2 t 車 長: 4.7 m 台 数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時30分前後	9時30分～11時30分	13時30分～15時	10分	15時～16時	16時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
	10日	10日	15日	15日
	10月	11月	12月	1月
	15日	15日	15日	15日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況

別添	なし
----	----

【公演団体名 沖芸大琉球芸能専攻OB会 】

ワークショップのねらい	<p>本公演の内容をより理解しやすくすることを目的とし、また指導者は、児童・生徒とコミュニケーションを図りながら交流を深め、鑑賞と体験を通して琉球舞踊に触れて親しんでもらいたいのです。</p> <p>琉球舞踊は、琉球国が中国からの使者(冊封使)を歓待する舞台で踊られたことを機に発展し、18世紀に大成しました。古典舞踊は老人夫婦の「老人踊」・少年仕度の「若衆踊」・青年のりりしさを表現する「二才踊」、艶やかな紅型衣装を羽織って踊る「女踊」の4種類に分けられます。廃藩置県後に、庶民の音楽や風俗を取り入れて創作されたのが「雑踊」、戦後、琉球舞踊家の伝統芸能活動によって作られた「創作舞踊」があります。</p> <p>琉球舞踊の音楽を担当するのは、地謡と言われる演奏家です。演奏の中心は、15世紀頃、中国から伝わったとされる三線です。三線を弾きながら歌うことから歌三線と言われます。こうした琉球舞踊の成立や特色、三線の伝来や役割を知ることで、沖縄独自の伝統芸能があることを初めて知る機会となるでしょう。</p> <p>琉球舞踊の体験では、指導者が児童・生徒の間に入り間近で実技指導を行います。こうした指導をすることで、伝統芸能特有の芸の継承方法である「真似る」ことを通して、児童・生徒は琉球舞踊の体験に主体性を持って取り組むことが出来ます。</p> <p>また児童・生徒は目の前で指導者の本公演演目「四つ竹」を鑑賞することで、指導者の修練によって培われた繊細な所作や舞踊の美しさ、表現力を技術の高さを感じるでしょう。さらには琉球舞踊の楽しさや魅力に触れることから本公演への興味関心を促すと共に児童・生徒の感性を豊かにし、舞台芸術を鑑賞する力を育む場となるでしょう。</p> <p>ワークショップの最後に、琉球舞踊についてのポイントを質問形式で振り返ります。挙手で感想や質問を聞かせてもらいます。こうした振り返りを行うことで、児童・生徒が自らの考えや学びを導き出し、探求学習につなげたいと考えます。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名程度

<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>◆ワークショップをスタートする前の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つ竹を準備します ・ホワイトボード(黒板)に参考資料を貼っておきます ・指導者は着物に着替えて、児童・生徒をお迎えします <p>●1単位目(1コマ) 時間40～45分(①～⑤)</p> <p>① ご挨拶(礼儀作法)と本事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が、名前と琉球舞踊の経験年数を紹介します ・本事業の紹介と、ワークショップで学んでいただくことを、プログラム順に紹介します ・全員で正座をし、姿勢を正してご挨拶をします <p>② 琉球舞踊についてと、楽器三線の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊の歴史と成立について紹介します ・三線演奏「かぎやで風」を鑑賞していただきます ・三線の伝来や歴史、に役割について紹介します <p>③琉球舞踊体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊で使われる手踊りの‘こねり手’ ・古典舞踊の役柄や性別による所作 ・雑踊の役柄の性別による所作 <p>④本公演演目:琉球舞踊「四つ竹」の鑑賞と体験□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊「四つ竹」を鑑賞していただきます ・「四つ竹」の歌詞、あらすじを紹介します ・琉球舞踊の四つ竹の持ち方と構え(女立) ・三線の演奏に合わせて「四つ竹」を踊りましょう <p>⑤1単位目のワークショップを振り返って、感想や質問を聞かせて下さい</p> <p>●2単位目(1コマ) 時間40～45分(⑥⑦)</p> <p>⑥児童・生徒の共演と参加の練習時間となります</p> <p>Aチーム 本公演演目 琉球舞踊「四つ竹」の練習です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒は足袋を履いてもらいます ・基本の構えと、歩みを練習します ・所作を練習します ・通して練習します。 <p>Bチーム 塗絵「紅型デザインの塗り絵の時間です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅型幕と紅型デザインについて紹介しますし ・塗り絵の説明(本公演時で舞台装飾となります) ・塗り絵を始めてください <p>⑦2単位目のワークショップを振り返って、感想を聞かせてください</p>
<p style="text-align: center;">その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>※ワークショップで、学んだことや体験したことを他の学年や児童・生徒に伝えられるようワークシートをご用意致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本公演までに、紅型デザインの塗り絵に色を塗りましょう。 本公演の際に舞台美術として、会場に装飾致します。 (授業時間などに差し支えない程度で取り組んでみてください) ・ワークショップ後に、琉球舞踊「四つ竹」の練習用の動画を、お送りします。 <p>塗絵原画協力、知念紅型研究所 https://www.chinenbingata.com/</p> <p>琉球舞踊について、国立劇場おきなわのホームページから、以下のサイトをご紹介致します。 https://www.nt-okinawa.or.jp/traditional-okinawan-performing-arts/ja/ryukyudance.html</p> <p>https://www.nt-okinawa.or.jp/okinawan-traditional-performing-arts/ryukyuan-dance</p>

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 沖芸大琉球芸能専攻OB会】

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

①本事業に対する取り組み姿勢

現在の初等中等教育に関する課題

○グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており、学校教育において、求められる人材育成像の変化への対応が必要である。

○これに伴い、21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等を重視する必要がある。これらは、様々な言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育まれることに留意する必要がある。

○今後は、このような新たな学びを支える教員の養成と、学び続ける教員像の確立が求められている。

○一方、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用など、諸課題への対応も必要となっている。

こうした時代に、私共は本事業に於いて、使命感、責任感を持ち、教育現場における感度を共有し、広い視野を持って取り組むことが大変重要だと考えます。

実施対象の児童・生徒、教職員及び保護者は、沖縄独自の伝統芸能である琉球舞踊を、初めて観て、聞いて、体験する機会となります。それはとても重要なことだと思うのです。なぜなら教育に関する課題として、規範意識の低下による主体性の欠如、読書量の減少による読解力の低下、優れた芸術文化に触れる機会の充実などがあります。

そこでワークショップでは、制作団体と公演団体が、児童・生徒、教職員と細やかにコミュニケーションを図りながら目標目的を明確にし、琉球舞踊の実演鑑賞と紹介、実技指導と体験を行うことで、本公演につなげる事前学習になると共に課題解決の糸口になるのではないかと考えます。

本公演では、実演家の日々努力研鑽した成果を表現すると共に、芸能への姿勢をあらためて正し、芸術が向上するよう取り組むべきであります。そうしたことが、沖縄独自の伝統芸能である琉球舞踊の普及振興の一助となるでしょう。また日本人のアイデンティティの形成に寄与することでしょう。

公演団体は必ず事前リハーサル時間を設け、そこに私共、制作団体が立ち会い、事業に取り組む姿勢を共有し再確認致します。私共、制作団体は、学校周辺の様々な環境や各学校の教育現場における状況を共有し、教職員の方々と一緒に考え事業を進めてまいります。沖芸大琉球芸能専攻OB会と、株式会社BOX4628は、本事業に謙虚で真摯な姿勢で取り組ませていただきます。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

「スケジュール調整と公演内容の周知」

開催校が決まりましたら、本事業の円滑に進めていく為に、ワークショップ開催日のスケジュール調整表と本公演開催時間の調整表をお送りします。またワークショップ、本公演で行われる内容の資料をお送りして教員内、学校内での周知に利用していただきます。

「速やかな連絡体制」

ワークショップ・本公演までの、学校と私共との連絡方法として固定電話、携帯電話、メールなどでご対応いたします。

「ワークショップから本公演前の事前学習」

事前学習として、ワークショップ、本公演を授業カリキュラム上、鑑賞することが出来ない児童・生徒さんの為に撮影をお願いします。また公演内容に関連したワークシートもお渡しします。

「学校側の要望と児童・生徒への留意事項と地域環境の確認」

本事業を、何の授業時間として行い、どのような目的として利用されたいかを伺い、学校教育に寄り添った上演の進め方と致します。また児童・生徒の普段の様子や、体育館に集まった際の先生方の指導方法など伺い制作団体、出演団体で共有致します。学校周辺の環境や地域性を伺って、学校へ伺った際に児童・生徒とのコミュニケーションに利用致します。

「教科学習への具体的な活用のご提案」

ワークショップや本公演の内容を教科の学習に結びつけていただけるよう、具体的な活用の手引きを作成して先生へお渡しします。

別添	なし
----	----

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

沖芸大琉球芸能専攻OB会

】

①離島・へき地等における公演実績

2019年 琉球舞踊公演 2公演(伊平屋村我喜屋区、伊是名村伊是名区)

②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫

- ・舞台装置として、児童・生徒さんに色を塗って頂いた、紅型の塗り絵を舞台美術の装飾に加えます。
- ・ワークショップ、本公演ともに、児童・生徒が必ず四つ竹を体験できる数を持参いたします。
- ・ワークショップ、本公演を同日開催で実施できます。
- ・ワークショップ、本公演ともに、ステージを使わず、フロアで公演できます。
- ・沖芸大琉球芸能専攻OB会の会員から、沖縄県立芸術大学、琉球舞踊組踊コースを修了した人材から本企画に相応しい人材の出演となることから、ワークショップ、本公演の質を担保致します。

③C区分応募における、費用面の工夫

- ・照明機材持ち込まないことで、費用を抑えることができます。

C区分で事業を
実施するに当たっての工夫

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.2

【公演団体名

沖芸大琉球芸能専攻OB会

】

本公演の様子



「四つ竹」
女踊り



「加那ヨ一天川」
雑踊り



「前の浜」
二才踊り



「四季口説」
若衆踊り



「かぎやで風」
老人踊り

共演演舞発表
「四つ竹」女踊り



カーテンコール

